2部

現場（フィールド）から現場（フィールド）へ

実習を振り返って

通信教育部社会福祉学科卒業生　**髙橋　彩**

1，実習に向けての取り組み

私の実習先は地元の社会福祉協議会でした。地域福祉や福祉教育，相談援助技術について重点的に学びたいと思い，社会福祉協議会での実習を希望しました。実習が始まる前に，地元の人口や高齢化率，福祉の現状，社会福祉協議会で行っている事業について，ある程度調べて実習に臨みました。しかし，実習初日に実習の予定表を渡され，実習内容を確認したとき，私が思っていたより，社会福祉協議会ではいろいろな事業が展開されていることを知り，もう少し実習先のことを詳しく調べておけば良かったなぁと感じました。また，各種制度やサービスの概要について学んでおくことも実習をスムーズに進めていく事前準備として大切だと思いました。

2，実習を通して感じたこと

実習では，日常生活自立支援事業の同行訪問や各地域で行われているお茶飲みサロンや福祉団体の行事への参加，小学生へのキャップハンディ体験の授業，その他にも，デイサービスセンターや訪問介護サービスへの同行訪問など社会福祉協議会で行っている事業を様々経験させていただきました。また，各種福祉制度などについて，手続きの進め方や現状なども含め，社会福祉協議会事務局より講義を行っていただきました。これは社会福祉士国家試験の勉強にも大変参考になりました。

実習を通して，これまでのスクーリングの中で学んだことを実践し，改めて理解できたことがとても多かったと思います。相談を受ける時の体の

向きや，話の聞き方，うなずきのタイミングなど，些細なことでも相談援助の現場ではとても重要な意味を持つのだと感じました。また，各関係機関との連携の方法やケース会議の進め方など，授業を聞き，テキストを読んだだけではわからなかった事も実感しながら学ぶことができました。

実習では，実際に相談者を目の前にすると考えた通りにはいかなかったし，本当にこのような対応でいいのだろうかと悩むこともありました。しかし，スクーリングとレポート学習で学んだことをひとつずつ確認しながら実習を進め，また実習で疑問に思ったことや理解が足りなかった部分を実習指導などで学びなおすことができたので，不安を感じることはあまりありませんでした。また，同じく実習を行っている仲間との情報交換も実習を進める上で，とても励みになりました。

実習指導の際に，ある先生に「現場とは，施設の中だけではない」というお話を聞いたことが強く印象に残っています。これまでは，「現場」というと施設や事業所の中をイメージしていました。でも，実習を進めていくうちに相談援助の現場とは，施設の窓口や相談室の中だけではなく，訪問先の玄関や近所の道端など，相手がいる全ての場所が相談援助のフィールドになるんだなぁと感じました。そして，その中で客観的な視点と相手に寄り添える心を持って援助していくことが大切だと思いました。

3，実習を今後に生かして

私は現在，町役場の福祉課で働いており障害者福祉や生活保護に関する係に所属しています。職業上，悩みを抱えた方から相談を受ける機会が多くあり，実習で学んだ相談援助技術を思い出しながら仕事をしています。また，なるべく多くスクーリングを受講し，講師の先生の話を聞いたことも今の仕事を行う上で非常に参考になっています。

また，私事ではありますが，当町は昨年の３月11日に起きた東日本大震

災で大きな被害を受け，多くの住民が大切な家族やこれまで住んでいた自宅，生活を支える仕事を失いました。私自身も被災し，今は仮設住宅で生活をしています。少しずつですが生活が落ち着いてきた今になってようやく，卒業できたんだ，社会福祉士国家試験に合格できたんだ，という実感が持てるようになりました。

震災後，全国の皆さんの温かいご支援やご協力をいただきながら，住民の皆さんも私も前を向き少しずつ歩き出しています。この場をお借りして，ご支援いただきました多くの方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございます。

今後も，復興に伴ってさらに生活が落ち着いていくと同時に，様々な問題が必ず発生してくると思います。そのとき，大学生活で学んだ多くのことを生かして，福祉に携わる人間として精一杯仕事に取り組んで行きたいと思います。